

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年12月1日

公表: 令和5年3月10日

事業所名 ポカラボット

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100				
	2	職員の配置数は適切である	100				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	60	30	10		床は全面フラットだが、バリアフリーの視点から、事業所全体を再点検し、より操作性や視認性、快適性の良い空間づくりのための意見をスタッフで出し合いたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	90	10		ミーティングで、業務改善について話合っている。月業務分担表の進捗を毎朝の打ち合わせで確認し、担当は毎月調整している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	90	10		アンケート回収後は、結果をまとめ、ミーティングで分析を行っている	結果の分析に対する実効性のある改善計画の策定に注力し、確実な改善につなげていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	70	20	10	毎年実施している	スタッフへの周知をしっかりと図っていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	45	20	35	社内の第三者評価調査者資格をもつスタッフがチェックを行っている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	90	10		毎年アセスメントシートの記入を保護者に依頼している。保護者面談や支援記録、検査結果などを参考にしている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	90	10		面談時にS-M社会生活機能検査を広く実施している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90	10		新しい外出先や子どもの反応の良かった活動、事業所間交流など、様々なプログラムを設定している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	90	10		平日と休日は利用する子どものメンバーも変わるので、それぞれの課題や目標につながる活動を企画し、グループ分けを行っている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	90	10		サービス終了後にHUGに支援記録を入れている	支援計画に示した内容に関する記録をいかに積み重ねていけるかに取り組みたい
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	90	10		半年ごとの計画の更新にあたり、必ずモニタリングを実施している	計画の内容自体が、モニタリングで明確に評価できるものであるかが肝要であり、点検が必要
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	90	10		身辺自立、コミュニケーション、運動、創作、社会活動など、様々な経験の機会を提供できるよう意識してスケジュールを組んでいる	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	90	10		主に児童発達支援管理責任者が参加している。ZOOMでの会議が増えている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	90	10		必要に応じて、学校と直接、または保護者を通じて行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20	35	45	現在はこの項目に該当する子どもの受け入れをしていない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	25	25	50		利用する子どもの利益につながるよう、市内に開所した児童発達支援センターとの連携構築に努めたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25	50	25	今年度2名が移行する。相談支援が移行先とのつなぎの役割を果たすため、要請に応じて必要な情報提供を行っている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80	20		市や県の主催する研修にスタッフが出席している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	55	25	20	地域の公園では、自然と子ども同士仲良くなり、一緒に遊びを楽しむこともある	障害の有無という基準や視点ではなく、地域の子どもの活動参加の機会を今後も保障できるようにしていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	70	20	10	今年度も出席している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90	10		帰りの送迎やLINEのやりとりを通じて、事業所での子どもの様子が保護者にわかりやすく伝わるよう意識している	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	55	35	10		保護者の対応力の向上のためには、スタッフのスキルアップが不可欠であり、どのような研修の機会を設けるのがよいか、しっかりとスタッフ間で協議したい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80	20		契約時には、時間をかけて丁寧な説明を意識している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	70	30		電話、面談、LINEなど、様々な方法で相談を受付けている。その場で返事ができない場合は、打ち合わせで共有し、事業所としての助言をまとめている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	55	25	20	今年度より、休日や平日の午前中などに事業所を開放し、保護者サロンを開催している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	90	10		今年度は苦情事案はなかった。社内に苦情解決窓口を設けるとともに、契約時に相談窓口の案内を行っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80	20		活動内容はHUGで保護者の携帯やPCから閲覧できるようになっている。土曜日・祝日の活動予定はあらかじめ周知している	
	35	個人情報に十分注意している	100				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	90	10		支援計画において、どのようなアプローチをとるのが、個別に規定されている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25	25	50	市内の福祉事業所の有志で、マルシェを大々的に開催した	今後はこれまで以上に外に向けた活動に会社としても力を注いでいきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80		20		今年度もHPやLINEで再周知を行っている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	90	10		今年度より毎月実施している。BCP策定委員会も立ち上げ、BCPが完成した	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100			虐待防止委員会が中心となり、スタッフ向けの研修を開催した。外部の虐待防止・権利擁護研修にもスタッフが参加し、伝達講習を行った	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	45	35	20	今年度より虐待防止委員会を開催しており、委員会において身体拘束に関する議論を進めている	事業所では身体拘束を行わない基本方針を固めている。身体拘束となりえる行動や対応の線引きを引き続き精査するとともに、不適切な対応を引き起こす療育環境の点検にも取り組んでいきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	70	10	20	サービス前の打ち合わせで、HUGやサポートブックなどにより、毎回確認を行っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	90	10		毎日打ち合わせで事例を抽出し、事例リストの作成、チャートによる分析を行っている	